

平成 29 年度 神奈川県立藤沢総合高等学校 第 3 回学校運営協議会 会議録

日 時 平成 30 年 3 月 7 日 (水) 11 時 00 分～12 時 30 分

会 場 藤沢総合高等学校 応接室

出席者 学校運営協議会委員

長谷川功委員 (委員長)、佐野朗子委員 (校長)、川上隆委員、横山俊明委員、  
加瀬良一委員、原雅子委員

学校職員

草野義嗣副校長、石倉一史教頭、本村一成総括教諭、梶原実総括教諭  
今村玲総括教諭、長瀬右文総括教諭、宮入啓治総括教諭、  
松長智美教諭、櫻井しのぶ実習指導員、田中友吏子教諭

内 容

校長より

寒い中お集まりいただきありがとうございます。本校では 3 月 2 日に卒業式を終え、昨日から期末テストが始まりました。

本校は県立高校改革により教育課程を見直し、Semester 制を導入し、卒業単位数を 74 単位から 80 単位に増やし、55 分授業にするなどの改善を行っています。そのような中、本校は中学生からの高い評価をいただき、今年度は県内の総合学科の中で最も高倍率でした。新たな生徒を迎え 4 月からも頑張っていきます。

また、本校の高い評価は、生徒の校内外での頑張りによるものだと思います。今年度は地域でのボランティア活動や発表の機会をいただきながら、地域と密接に子どもたちの活動が行われたという印象です。外部の方のご協力を得ながら、子どもたちに安心・安全な環境づくりを行うことができました。

文部科学省は、高等学校学習指導要領の改訂案を公開しました。今後、新しい学習指導要領実施に向け授業改善や教育活動の活性化を図っていきます。子どもたちに汎用性の高い学力をしっかりとつけさせる学びを提供し、子どもたちの希望する進路先につなげていきたいと思えます。

会長より

年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

藤沢総合高校の入学志願倍率が高いのが目につきました。志願者から見て行きたい学校であり、生徒が希望する進路先に旅立って行けるような学校を目指したいと思えます。学校運営協議会では、藤沢総合高校がよりよい学校となるためにお手伝いできればと考えています。

学校評価部会の部会長の選出を行い、本日の評価部会を進めていきたいと思えます。(校長より原議員を推薦、承認)

## I 学校評価部会

### 1 学校運営、教育活動の状況に係る説明

(1) 学校教育計画、「1年間の目標」を踏まえた本年度の取組状況について

(2) 前年度の取組状況等を踏まえた改善の状況について

(3) 本年度の校内評価について

#### ○ カリキュラムより

- ・ Semester制を導入し、1年が経過しようとしている。

前期はほぼ全員の履修が認定されたが、後期では履修が認められなくなる生徒が出そうなため、今後どうしていくかを検討したい。2年次にも必履修科目が3科目あり、それがうまく回るかも来年度の課題であると考えている。

- ・ 遅刻者数について、1、2年次生は昨年並み、3年次生は減少傾向にある。全体の平均値は過去5年の中でもっとも少ない。もう少し取り組んでいけばもっと改善がみられる。

#### ○ 総合推進より

- ・ 生徒による授業評価は今年度に関しては前期よりも後期の方がよい結果になっている。授業の工夫や生徒と教員との関係がよくなっていることがみられる。

・ 魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートは結果が他校よりも低めであり、改善の取組をしてきた。いろいろな取組を行う中で、「学校生活に満足している」という項目やキャリア教育の項目で肯定的な回答を選択する生徒が増えてきた。

- ・ 学校説明会の来校者数は例年通り、入試の倍率も例年通りであるが、男子生徒の割合が少ないことが気にかかる。配慮は必要だろうか。

#### ○ 生徒活動より

- ・ 生徒活動では、生徒会活動や部活動の活性化に取り組んできた。魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートでは、行事等に関する項目と、部活動に関する項目の評価が上がっている。行事の雰囲気の実や、応援団などで部活動の生徒の活躍が伺える。

・ 文化祭では2日間のうち、1日目を自由な服装にしたり、食中毒防止の策に取り組んだり、催し物の種類を増やしたりした。

- ・ 部活動に関しては、1年生の女子の加入率が減少している。1、2年次生を対象とした部活動アンケートの結果では、部活に入らない理由として「バイトをしたい」、「入りたい部活がない」などがあげられている。生徒は“ゆるい部活”を望んでいるのかもしれない。次年度も行事や部活動の充実向け、きめ細かな指導に取り組んでいきたい。

#### ○ 生徒支援部より

- ・ 教育相談に関しては、本校はスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの拠点校となっている。スクールソーシャルワーカーは家庭の問題も含めて外部機関との連携をしている。

・ 遅刻指導では、掃除をさせる、早く学校に来させるなどの指導を行っている。担任から生徒に遅刻回数を告げ指導している。

#### ○ ガイダンスより

- ・ 希望を持って入った生徒が希望を持って卒業できることを目標に進路指導を行っている。

インターンシップでは53箇所が生徒がそれぞれ参加した。事前指導を厳しくした結果全員が

しっかりと終えることができた。

- ・今年度の卒業生は17名の進路が未定である。その理由として一般受験が増えているということがあげられる。
- ・大学進学を希望する生徒が増え、就職を希望する生徒が減っている。指定校以外の大学にも挑戦する生徒が増えている。就職では、求人先が増え、早く就職が決まる生徒が多かった。公務員では警察に合格している。

○ 総務より

- ・今年度は初めて地域の防災訓練に生徒3名と教員1名が参加した。
- ・地域の方のご協力も頂き、藤総ロードにコスモスの植え付けを行っている。
- ・本校PTAの広報紙は、神奈川県高等学校安全振興会の写真賞を受賞した。

○ 教頭より

- ・本校における教員の不祥事はなかった。
- ・藤総ニュースで1年を振り返ると行事や学習内容の充実がみられる。

## 2 学校評価部会における評価について

○ 各委員より

- ・生徒のアンケート結果がよくなっているのは指導の成果の表れである。
- ・生徒のアンケート結果がよくなったのは、これまで厳しく指導を行ってきた結果として学校が落ち着いてきたため、規則をゆるめたりしたからかもしれない。
- ・生徒の活動の成果を外部に発信することで、学校の宣伝になり教育の質を上げられるのではないか。
- ・部活動では外部の指導者も頼っていくとよいのではないか。
- ・目標に対して明確に取り組みが行われている。それが生徒にも反映し、生徒の成長につながっているのではないか。アンケートの結果を生徒にフィードバックするとよいのではないか。

## II 学校運営協議会

### 1 学校運営、教育活動について

- (1) 学校評価部会における評価結果を受けた改善方策
- (2) その他

○ 各委員より

- ・学校運営協議会として、生徒の進路に役立つ取り組みに努めていきたい。
- ・生徒のアンケート結果から、生徒が自己有用感を感じる教育ができているように感じる。学力だけではなく、学校としては、そこももっとアピールした方がよいのではないか。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによって生徒が支えられている現状がある。
- ・同好会などのゆるい活動などを、生徒がもっと活用できるようにするとよい。

○ 校長より質問

- ・現在、本校は男子生徒が少ない状況にあるが、女子だけのクラスなどを作り、ある程度の男子を数クラスに固めた方がよいか。

○ 各委員より回答

- ・人数が少なくとも、男子がクラスに混ざっている共学の方がよい。
- ・女子ばかりであるとグループを作るなどがあるため、少人数でも男子がクラスにいた方がよい。

2 学校運営協議会の運営について

(1) 平成 29 年度部会の運営報告

(2) 平成 30 年度に向けて

(3) その他

○ キャリア部会報告

- ・11月全校生徒に対する講演会を行った。
- ・12月に職員研修会を行った。

○ 地域連携部会

- ・昨年の11月に藤沢高校で長後共育フォーラムを開催した。長後共育フォーラムには2つの部会がある。詳細は資料は参照してほしい。
- ・第2回の学校運営協議会の後にコスモスのつどいを行った。長後共育フォーラムや青少年支援課の方、一般の方、生徒などが参加し、相互で意見の交換などを行った。
- ・学校と地域の交流については、ふれあいコンサートで小学校、中学校、高校の生徒が演奏し、それを地域の人に聞いてもらう活動を行った。藤沢総合高校は吹奏楽部の生徒に参加してもらった。
- ・3月10日にふれあいサタデーがある。ダンス部に参加してもらう予定である。
- ・5月に長後市民祭りがあるが、生徒にボランティアとして、参加してもらいたい。

連絡

- ・本日はこの後本校で、大島武氏による講演会が開催されるので、ご都合がよろしければご参加いただきたい。
- ・学校運営協議会の委員任期は2年であるため、次年度も引き続き委員をお願いしたい。